

資料名 なんだろう なんだろうー生きる「しあわせ」ってなんだろう

光村図書 5学年 106 ページ

1. 本教材について

▼本教材のテーマは「しあわせ」、「幸福」である。学習指導要領の内容項目に「幸福」という言葉はないが、道徳教育の目標の中に「豊かな心を持ち」という言葉が入っており、また、新指導要領が育成すべき資質、能力の柱の一つは「どのように社会・世界とかがわりより良い人生を生きるか」ということなので、「しあわせ」「幸福」は充分道徳教育のテーマになり得ると思われる。倫理学でも「良い人生とは何か」、それは幸福に生きることなのではないか、という問がテーマとして扱われてきた。内容項目の「自分自身に関する事」で扱われるべきではないか、と思われる。

▼教材はヨシタケケイスケの絵によってさまざまな「しあわせ」を提示している。その上で「しあわせは、自分の考え次第でいつでもつくることができるのではないかと結論めいたものも提示している。具体的ないくつかを「しあわせ」として提示されているので、子どもたちとともに「しあわせ」を具体的に考えたい。

2. 本教材を使用する場合、特に注意すべきだと考えたこと

▼話の内容から考えて子どもたちが調べたりすることによって新たな視点が出てくることは考えにくい。子どもたち同士の経験に基づいた対話を活発に行い、さまざまな視点を発掘するようにしたい。抽象的な対話にするのではなく、具体的にかんがえたい。また、「しあわせ」は気持ちの持ち方次第、などといった結論を出さないようにしたい。なお、指導過程でも紹介したが5年生「誰もがしあわせになれる社会を」は本資料とあわせて取り上げると良いと思う。

▼教材を読み解く際、「しあわせであるかどうか」という基準で考えることもできる。例えば6年生で扱う「手品師」で、手品師はしあわせか？5年生で扱う「アンパンマン」のアンパンマンは？「おばあちゃんからもらった命」のめぐみさんはどうしたらしあわせになれるだろうか。4年生で扱った「泣いた赤鬼」の赤鬼は？青鬼は？「花さき山」の「あや」は？「そよ」は？「ふたごの赤んぼうの上の子は？下の子は？

3. ねらい

▼教材を読み解き、子どもたちの感想を聞き取る中でさまざまな視点に気づくこと、子どもたちが自由にいろいろな意見を言い、それをしっかり聞き取る、という学習活動を行うことをねらいとする。

4. 指導過程（その1）

|    | 子どもの活動や教師の発問等   | 留意点   |
|----|---|---|
| 導入 | どんなとき「しあわせ」と感じたか、経験を聞く。授業者もいくつか話したらどうだろうか。<br>次のケースはしあわせかどうか、考えてみる。<br>「A君はチョコレートが大好きです。親せきのおじさんの家に行ったら、チョコレートをたくさん出してくれて好きなだけ食べて | このあとの授業で活発な意見が出るように雰囲気づくりを行う。しあわせそうな表情をした写真を見せるなどのことが考えられる。授業者がそういう |

|     |  |   |
|-----|--|---|
|     | 良い、といわれました。」   | 表情をしてみせるのも良い。                             |
|     | <p>次の中で一番しあわせに関係のあるものを選んでなぜそれを選んだか、グループをつくって話し合ってみよう。</p> <p>①たくさんおこづかいをもらえる<br/> ②まわりの人にやさしくしてもらえる<br/> ③自分の気持ちを自由に言える<br/> ④まわりの人にいやなことを言われたりされたりしない<br/> ⑤好きなだけあそぶことができる<br/> ⑥おいしい食事が食べられる<br/> ⑦テストで良い点が取れる</p> <p>○どの番号を選んだか各グループで発表する</p> | <p>選択肢の中にはない項目があればあげてもらおう。あとで皆にも紹介する。</p> |
| まとめ | ○子どもたちがどのような「しあわせ」観を持っているか、他との違いがあることに気づくようにする。  |   |

#### 5、授業を終えてのふりかえり

▼子どもの意見が自由に伸び伸びと言えたか、子ども同士の対話できたか、その中で自分の考えを深めることができたか、という視点で授業をふり返り、その中で自分と他の子どもとの違いに気づくことができたか。

▼教師としてはあらかじめ予想していなかった子どもの意見に沿うことができたか、ということにも注意したい。

## 6. 指導過程 (その2)

|     | 子どもの活動や教師の発問等   | 留意点   |
|-----|---|---|
| 導入  | <p>どんなとき「しあわせ」ではないと感じたか、経験を聞く。授業者もいくつか話したらどうだろうか。</p> <p>次のケースはしあわせではないかどうか、考えてみる。</p> <p>「A君はチョコレートが大好きです。でもお母さんからチョコレートは虫歯になりやすいし、食べ過ぎはだめと言われ、一週間に1個と制限されています。」</p>   | <p>このあとの授業で活発な意見が出るように雰囲気づくりを行う。しあわせそうな表情をした写真を見せる、しあわせとは思えない表情の写真を見せるなどのことが考えられる。授業者がそういう表情をしてみせるのも良い。</p>   |
|     | <p>教科書に書いてあることを反対にして不幸せになるかどうか、考えてみよう。</p> <p>例1 なにも自分で決められなかったら<br/>「ワタシはワタシでよかった」とは思えない、というのはどう<br/>いうことだろう。<br/>しあわせではないとワタシはどうなるだろう</p> <p>どんな社会だと多くの人がしあわせになるか考えてみよう<br/>また、どういう社会だと多くの人が不幸せになるだろう</p> <p>「しあわせ」について書いた本を読んでみよう。</p> <p>例 「赤毛のアン」について紹介する<br/>主人公 アン シャーリーは11歳の時自分の髪の毛が「赤<br/>毛」であることが不幸の原因だと言っていました。しか<br/>し、・・・。</p> | <p>子どもの意見はすべて取り上げて考えるようにする。</p> <p>ここで「赤毛のアン」を紹介しても良い。</p> <p>同じ5年生の教科書に掲載されている「誰もがしあわせになれる社会」を読んでも良い。「ハンセン病」の人はしあわせだっただろうか。しあわせではなかったとしたらどうしてだろうか。</p> |
| まとめ | <p>○子どもたちがどのような「しあわせ」観を持っているか、他との違いがあることに気づくようにする。</p> <p>道徳の教材を読む際、その人とはしあわせか、という視点で考え<br/>みたらどうか、と投げかける。</p>  |   |

## 7. 授業を終えてのふりかえり

▼子どもの意見が自由に伸び伸びと言えたか、子ども同士の対話ができただか、その中で自分の考えを深めることができたか、という視点で授業をふり返り、その中で自分と他の子どもとの違いに気づくことができたか。

▼教師としてはあらかじめ予想していなかった子どもの意見に沿うことができたか、ということにも注意したい。